



## 発達をどう捉えるか？

### 育ちの道筋を知り、見通しをもつ

#### 子どもが「明日の自分」を創るために格闘している姿

- ・子ども自身が挑んでいる「自分づくり」の闘いにおいて、何を大切にするか。
- ・「すでに獲得している力（現在）」を受け止めながら、「自分のものにしつつある力（明日）」を支え、働きかけていく。



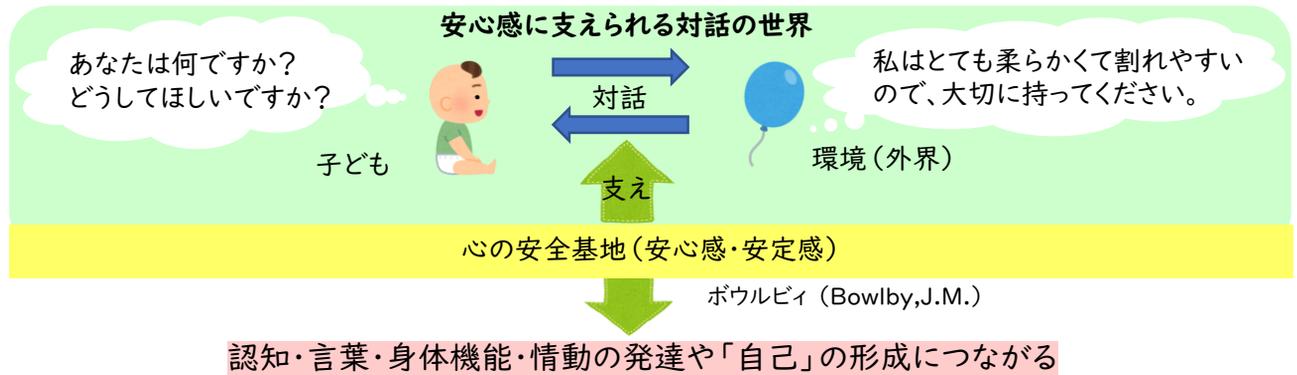
対話的な働きかけを繰り返しながら、  
子どもの格闘に寄り添い、協働していく  
＝保育の本質

出典：加藤繁美他監修（2012）『0～6歳心の育ちと対話する保育の本』学研pp.12-13.

## 保育者の関わりをどう捉えるか？

### 乳児は“問いかけの天才博士”

- ・自分が今獲得している全ての力を使って、興味の対象を知ろうとする。（ヒトやモノは問いかけられている）
- ・問いかけに対する応答を求め、さらなる力を獲得しようとする。→目に見える変化（発達）として表れる。



## 「分からなさ」から見えてくるもの



【事例】4月に入園したコウタは、A保育者が担当になると、膝の上に乗ることや抱っこを泣いて求めて、A保育者から離れることに強い不安を感じているようだった。A保育者は、「抱き癖がつくのではないか」「自立を阻んでいるのではないか」と自分の関わりに悩んでいた。

### コウタが安心して遊びを楽しめるようになるためには、どうしたらいいか？

A保育者は、コウタがどうしたら泣き止むかと悩んだときに「抱き上げる」「子守歌を歌う」などの行為（手段）が答えだと思っていたが、それでは根本的な解決になっていなかった。コウタが安心して楽しめるようになるため（目的）には、コウタの心の声や訴えを子どもの姿から見出す必要があった。

### ⇒コウタの本当の願い「安心したい」

コウタが安心できるようになるためには、どうしたらいいか

コウタが見ている世界をともに見る



A保育者が心の安全基地になった（安心感・安定感）

コウタが自ら膝を降りて遊ぶようになった



思わず働きかけたくなる環境、真似をしたくなる他児

コウタが自ら膝を降りたのは、A保育者が“向かい合うまなざし”から“横並びのまなざし”になったから

⇒「自分の見え方」のみでの子ども理解から「子どもの見え方」への転換（共鳴）

# 子どもを見る3つのまなざし

## 観察するまなざし

個人の能力に焦点化し、その子どもにはどのような能力がありどのような性質があるかを推測しようとするまなざし。

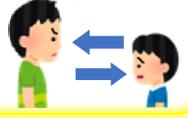
この子は  
こういう子だ



## 向かい合うまなざし

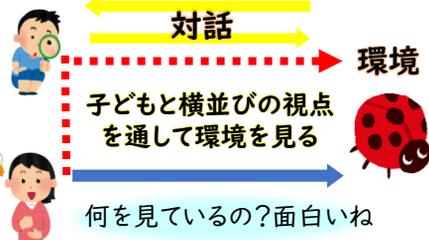
「期待される子ども像」を押し付けてしまいがちになるまなざし。子どもも期待に合わせようとしてしまう。

抱っこしてるのに何で  
泣き止まないの？



## 横並びのまなざし

- 子どもが見ている世界を共に見て、思いを共にしようとするまなざし。
- 子どもと環境との対話の世界に共に入り、子どもの目線で、子どもの見ている・感じている世界を共に味わうまなざし。



出典：田中利則監修(2018)『保育者論』第4章p.75より。  
佐伯胖(編)(2007)『共感-育ち会う保育のなかで-』ミネルヴァ書房25~26頁を基に金元氏が作成(文章は原文の表現を一部間接的に引用)

## 演習 「子どもの側に立ち上がる喜びとは何だろう」という観点

0歳児の発達の特徴(獲得した力)を一つ上げ、中央の○の中に書いてみましょう

グループで  
話し合いました

<p><b>可能になること</b> 見える世界が広がる、 変わる</p>	<p><b>子どもの側に立ち上がる喜び</b> それまでより先にあるモノやヒトに気づき、そこから喜びが得られるようになった</p>
<p>目線の先に興味を引くものを置く <b>出会えると嬉しい環境</b></p>	<p>子どもの驚きや喜び、 発見に共感する <b>喜びが深まる関わり</b></p>

首が据わる

変化を生み出す原点にあるのが子どもの喜び  
↓  
その先にあるのが変化



子どもにとっての喜びは一樣ではなく多様。正解探しになりすぎず、子どもの目線から意見を交わし合うことを楽しんでみましょう。

## その後の育ちにとって重要な土台が築かれる



この人はいつも心地よさを  
与えてくれる  
→【人への信頼、安心感】

自分は愛される存在だ  
→【自分や人を大切に  
する気持ち】

自分が生きている世界は心地いい  
→【興味、意欲、好奇心、探求心 etc.】

愛着形成、基本的信頼感、自己肯定感、非認知能力等はその後の育ちの根っこになる

## あなたの感じている世界を私も一緒に味わいたい

環境との対話に没頭できる環境とは？

何と出会いたがっている？  
心動かされる出会い方は？



遊びが停滞している時、共感を求めている時、一人遊びに没頭している時の関わりは？

→子どもの思いを叶える環境や関わりを考える。

- ・子どもが環境と出会って、じっと見つめている時、足を止めた時、手を伸ばした時…目を輝かせた瞬間を見逃さない。
- ・制止・禁止が必要な場面であっても、子どもの思いや願いに共感しようとする姿勢で関わる。

## 研修生の報告書より

・何故子どもは不安だったのか、自分の保育、行動を振り返るきっかけとなりました。不安にならないようにと、向き合っただけの視線で過ごしていたことも要因のひとつかもしれないと感じています。

・子どもたちが何を発見し、その発見の先に何があるのか・何を思っているのかを一緒に感じられる保育者になりたいと思った。子どもと同じ目線の保育を通じて、子どもと共に成長し、子どもたちと心が通じ合えるような保育をしていきたい。